

オーケストラ関係の楽譜売り場。楽譜棚が天井まで届く

楽譜のことなら ドプリンガーへ

「ズユース・ウント・ディック」つまり「甘いデブ」というオルガン曲を知っていますか？ この曲の楽譜を是非欲しい、と緊張した面持ちをしてウイーンの有名な楽譜屋「ドプリンガー」に来た婦人があった。

バッハが作曲した「注射」や「侵入」や「感染」を欲しいという客が後を断たない、など大抵の事には驚かない店員も、これには困ってしまった。

さて、この「甘いデブ」、真相はレオン・ボエルマン作曲の「ゴシック（ゴティック）組曲」の事だった。

どう解釈するところなるか、という謎解きには、少しばかり説明が必要だろう。

「ズユース・ウント・ディック」の「甘い」は英語でスイート。

「組曲」と発音が同じである。一方「ウント・ディック」の方はくだんの御婦人が「ゴティック」というのを聞き誤ったらしい。

聞きただしてみれば、前日のラジオ番組で放送されたのを聞いて以来、その楽譜をどうしても欲しくなったのだと言う。「たがいまのはスイート・ゴティックでした」というアナウンサーの声を一生懸命記憶しようと思っているうちに「組曲^{スイート} 甘いものは太る」の誤解がおきてしまったのだ。

バッハの方は、これら全て有名な「インベンション」の事である。ピアノの先生に「インベンションを買っていらっしやいね」と言われた子供が、忘れちゃいけない、と何回も口の中で繰り返しているうち、店に着く頃までに「インベンション」が「インジエクシオン」「インヴェーション」「インフエク

ション」などに化けたもの。

ドプリンガーを訪れるのはもちろんこんな客ばかりではない。当店は、他のどこを捜しても見つからないような楽譜でも、その場で買える可能性が非常に大きい、世界的にも有名な専門店である。

それもそのはず、建物の地下にある大倉庫には常時30万曲以上の楽譜がストックされている。たまたまその楽譜が在庫切れでも、店員がすぐさまカタログを調べて世界中どこからでも取り寄せてくれる。そのため提携している出版社は300以上もの数にのぼる。この店に勤めている人は職業学校で「音楽書籍販売業」という3年間の専門課程を終えたエキスパー

トばかり。音楽好きでないし勤まらない職業だし、また事実自分でも楽器を演奏できる人がほとんどだ。

彼等の専門知識は広く一般市民からも尊重され、学生や音楽ファンからの「ストラヴィンスキーの生年月日はいつ?」とか「マーラーの交響曲は全部で何曲?」などという電話での問い合わせは日常茶飯事。これらに親切に答えるのは顧客サービスのほんの一部だ。

この創業以来100年以上の歴史を誇る老舗ドプリンガーはウィーン^{ガッセ}の中心にある繁華街、グララーンからちよつと横に入ったドロテア通りという小路にあるが、ウィーンにいる音楽関係者でこの



ドプリンガー社外観



レコード売場の試験室にて



建物内にあるハロツク・ホール

店を知らない人間はもぐりである、ともいえるほど有名である。

まず店を観察してみよう。ドロテアガツセ10番地には中央にある建物の入口（ここは事務所入口）をはさんで左右両側に同じような構えのショーウィンドーがある。

それぞれにガラスのドアがあり、向かって右側のドアを押して入ると一般楽譜（ピアノや室内楽、各種スコアなど）と音楽書の売場がある。レジの横を抜けて右奥に入っていくと古楽譜、ミシミシいう木の階段を登ると教会音楽やコーラスの楽譜の売場となる。

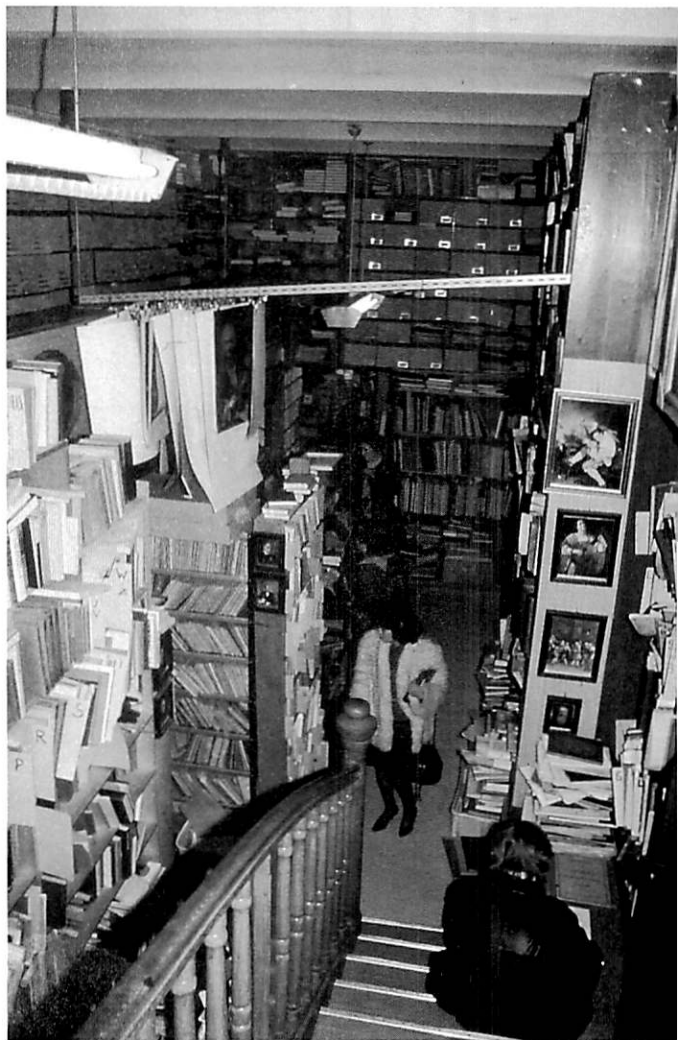
左側の入口は入って右手がオーケストラ・ブラスバンド関係とポピュラー、及びオーブストリア民謡

などの楽譜売場、左手はレコード売場である。

楽器部門は入口が別で、建物のすぐ右隣りにある。あまり大きくはないが、教育用の楽器なども売られている。

古楽譜売場にストックされている楽譜の量もかなりなもの。気を落ち着けてじっくりこの宝の山を探してみると、初版本などの掘り出し物が見つかる事もある。

ピアノストにとって面白いのは、ありとあらゆる種類の交響曲やオペラ、オペレッタ、それに室内楽などのピアノ編曲版だろう。一冊数百円で買える。ソロと連弾の両方があるが、有名なシンフォニーを気の合う友達と連弾で



古楽譜売り場

試してみるのもまた一興だろう。

これらの編曲物はその昔、まだレコードがなかった頃に次から次へと出版されたもので、その楽譜を通じて一般の音楽ファンは自分の好きな曲や新曲を楽しんだのだ。

ピアノはオーケストラ、レコードやラジオの代理をする万能楽器であり、今日どの家庭にもステレオがあるのと同じように、当時は各家庭にピアノがあった。そして「ピアノを弾ける」という事は、一般家庭の子女にとって何よりも大切な躰のひとつでもあった。

古き、良き時代のお話である。